



シイタケ栽培に挑戦しよう

里山では、キノコの原木栽培が行われることがあります。原木として利用されるクヌギやコナラは、伐採しても切り株からまた芽が出てきます。これを^{ほうがこうしん}萌芽更新といい、雑木林の維持管理に大きな役割を果たしています。キノコは、種類によって栽培時期や栽培方法が異なりますが、ここではシイタケ栽培に限定して紹介します。

この活動のねらい

シイタケの原木栽培を通して、伐採した木を上手に利用することが雑木林の維持につながることを理解する。

準備するもの

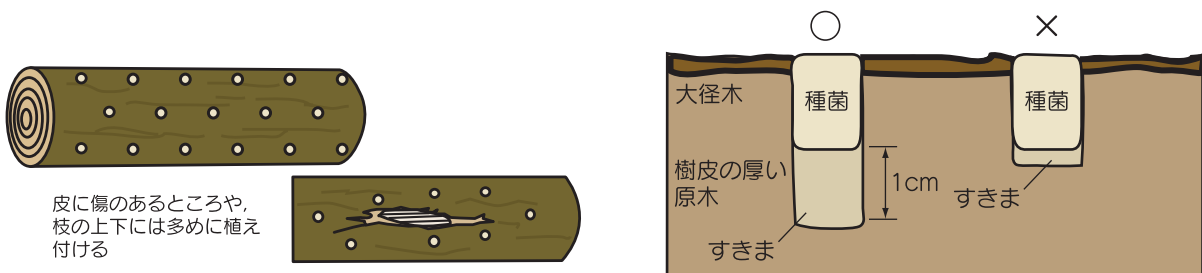
- ・ 電動ドリル（原木に直径 1 cm の穴をあける） ・ 木づちまたは金づち
- ・ 遮光ネット（林内に日陰がない場合） ・ ビニルシート
- ・ 種菌（駒菌や種駒などともよばれ、ホームセンターや農協で販売されている。)

事前準備

- 1 原木を伐採する。
 - ・ 原木には、クヌギ、コナラなどが適している。
 - ・ 伐採は 10 月～3 月までに行う。原木の太さは、直径 6 cm 以上が適している。
- 2 伐採した原木を扱いやすい長さにそろえる。
 - ・ 原木をおよそ 1 m 程度の長さに切る。直径が大きいものは、もっと短く切ってもよい。

シイタケを原木で栽培しよう

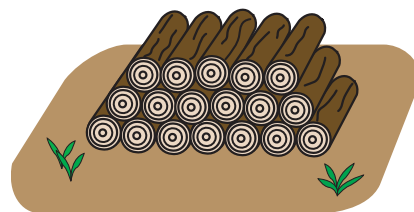
- 1 原木に穴をあける。
 - ・ 原木の切り口から 5 ～ 10 cm 離れたところからあける。穴と穴の間隔は、15 ～ 20 cm 程度確保する。2 列目は、1 列目から 4 ～ 5 cm 離してあける。
 - ・ 下図を参考に^{ちどり}干鳥になるように 3 列目の穴をあける。
 - ・ 穴の深さは、穴の底と種菌の間に約 1 cm のすき間ができる程度がよい。



- 2 菌の植付けをする。
 - ・ 植菌は、ウメがつぼみをもつ頃からサクラの花が散る頃までが最も適している。
 - ・ 打ち残しがあると雑菌が入るので、しっかりと木づちなどで打つ。

3 菌糸が原木内にまん延するまで仮伏せをする。

- ・ほだ木（植付けをした原木）は、3～4段積みにする。乾燥しているときには、散水をしてビニルシートなどをかける。
- ・2月前に植付けをした場合は、乾燥と低温に気をつける。
- ・3月頃からは、直射日光が当たると、ほだ木の温度が高くなり、菌が死んでしまう。そこで、ビニルシートを外し、遮光ネットをかける。



仮伏せ

4 5月になったら本伏せをして、シイタケの発生を待つ。

- ・ほだ木を林内に移動し、日陰で本伏せする。日陰にならない場合には遮光ネットをかける。遮光ネットはほだ木とすき間があくように柱を立ててかぶせるなどして、直接かけない。

●本伏せの例



地伏せ



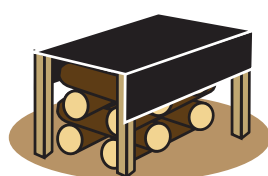
立て伏せ



枕伏せ



ヨロイ伏せ



遮光ネットの
かけ方の例

作業後

- ・シイタケの発生は、翌年の春以降から始まり、秋に最盛期を迎える。その間雨が少ない時期（8～10月）には、1週間に1度ほだ木に散水し、4～5週間続けるとよい。散水は、水道付近へほだ木を移動して水をかける方法や、市販のスプリンクラーを使う方法があるが、困難なときには近くに水を汲んだドラム缶などの容器を用意し、ほだ木を浸してもよい。

シイタケ栽培カレンダー

	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
原木の伐採	■																									
植菌					■																					
仮伏せ					■																					
本伏せ								■																		
シイタケの発生																					■					

まとめ

- ・キノコには、枯れた木や落ち葉などを少しずつ腐らせて、有機物を無機物に変え、土にもどすはたらきがあります。生態系でのキノコの役割について説明すると効果的です。
- ・雑木林の管理を怠ると、シイタケの発生にいろいろな影響を及ぼします。シイタケの発生にも、雑木林の手入れが重要であることを知らせましょう。
- ・伐採した木を利用するなどの雑木林の手入れが、里山の環境を整え、里山を守っていくことにつながることを伝えましょう。

資料提供：(有)なかのきのこ園